



正校

地方落穂集

十三十四

73
955
7



門ノ係 3
號 955
卷 7

會同

印政

校正地方落穂集卷之十三

目錄

- 一 轉切支丹血脈續の事
アヒドクシクシキクシキクシキ
- 一 切支丹類族属致方の事
キキキキキキキキキキキ
- 一 京都町奉行所ノ有之帳面字の事
キキキキキキキキキキキ
- 一 類族ノ出べき者の事
キキキキキキキキキキキ
- 一 本人本人同然伺書の事
キキキキキキキキキキキ
- 一 宗門改の節旗本より書上文言の事
キキキキキキキキキキキ
- 一 同大名衆より書上文言の事
キキキキキキキキキキキ
- 一 伺證文案詞の事
キキキキキキキキキキキ
- 一 取置證文案詞の事
キキキキキキキキキキキ

校正地方落穂集卷之十三

- 一切支丹類族病歿届の事
- 一同出生届の事
- 轉切支丹類族出生届の事
- 享保年中切支丹一件書付の事
- 村方より差出を注進書の事
- 檢使手代へ取置寺院村役入證文の事
- 代官より切支丹奉行へ差出を注進書の事
- 享保十八年切支丹奉行用入へ問合の事

校正地方落穂集卷之十三目錄畢

校正地方落穂集卷之十三

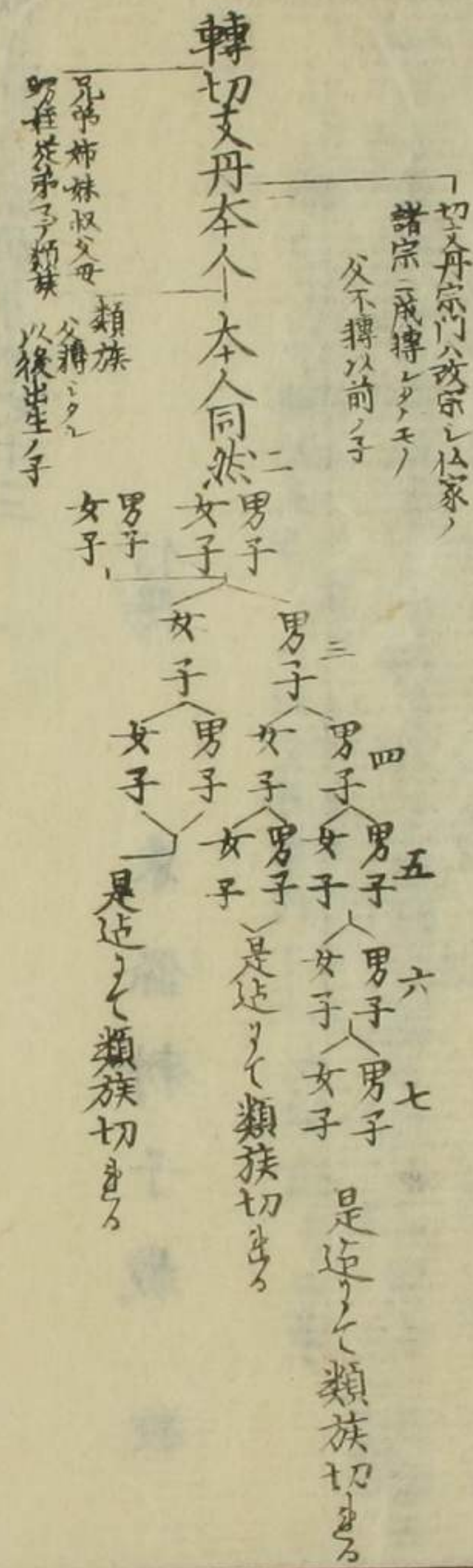
信陽 東條耕子藏 校

○轉切支丹轉切支丹ノハ切支丹宗門ノリハ血脉續キノ事

一切支丹宗門之と耶蘇宗と云切支丹とい即ち國の名也此國古へ南蠻の
 屬國より紅毛より近き由故に此切支丹を始として其外異國の船舶
 皇國へ航海するもの説ゆれど紅毛人之を注進を此功より由て紅毛の
 皇國通商の免許を得る由あり此耶蘇宗門を天帝と尊信と共忠孝
 の教あり儒と斥し佛を破し妖術を學び人心を惑を邪法あるに因て
 皇朝支那共嚴しき制禁あり然るに何時の頃より此宗門
 皇國へ渡來して西國北國に蔓延し元龜天正の頃平信長殊に信せし由

其後徳川祖宗政を執りしより悉く嚴重の制禁と成り然る共今又西國筋より轉切丈丹の類族絶ゆる由此宗門の本尊とテイウスと稱し異人の手と拱きくる形の由島原記に見へり今又至る迄西國方より年々宗門吟味の節右の本尊と重きものと下は教て踏をるべき之を繪踏と云とぞ

類族の系



○切丈丹類族届致し方の事

一宗門改め例年七月より十一月迄は奉行所へ證文と差出を據ふま訳にて延引をせバ十二月より出をとり年々越へ成難し

是ハ代官所私領知行所共村々毎年宗門改めりて男女人別怪き者一人も恙之尤自分召使に至迄吟味の上銘く寺証文と取置書付を以て届け有之儀あり

一轉切丈丹本人同然病死

初書判にて伺ひ其後
兩判の取置証文出を

是ハ右の者病死の節ハ即刻檢使差遣し死骸と改め病死は紛ふなき改見届し上塩詰と申付且那寺へ仮埋まし寺より預り証文を取り又死せし者の類族共より証文と取書判の書付を以て之と伺ひ差圖と受取置消し上兩判の書付を以て取置し趣と申上前方伺ひの書付

引替よらるるてなり

一類族病死 兩判の証文 但し二季届

是ハ檢便及及び親類共差出せし注進書の趣と以て取置申付且那

寺より取置し證文と取り七月十一月二季届の節書判印判と出を

一變死 兩判の届但し當時の届無判ふ

是ハ類族變死の節ハ委細の誤注進なり其節無判あるが二季届の内

へ書入べし是ハ檢使差出あり

一出生 無判書付 季届

是ハ注進の度毎元帳書入勿論覚書記し置二季共裁入りても

記し無判と之と出を尤も紙の西の内一枚とて済目録の格と認

め二枚も入とあるが帳綴べし但し右元帳書入ると場前後不

き招ははし置べし重ねて本帳認る節都合よし

一新縁 右月断

是と本人并本人同然の聲り嫁ありし者のとあり平人として切支

丹の聲或ハ嫁ホよあるが類族もるに由り届書出るとあり平人の事

と素人と書付らあり

一住居替 右月断

是ハ只今迄何國何村に罷居り何くの儀と付何方へ罷越とるか或ハ

奉公人あるが主人替りし認ると書とあり

一歸居 右月断

是と右と及せらるるものよと只今迄何方に罷在り何村へ立戻り

ふと認め出るとあり

交正地万巻集 卷之十三

一 欠落 当時届兩判

是ハ注進申出し節吟味と為し其筋より口上書と取り兩判を届と
出と勿論屹度お尋見當り次第申出べく旨堅く申付証文取置あり

一 死罪 伺ひ及リて当時 届け兩判あり

是ハ罪科なりて刑は行はるるに及れ共前方伺ひ及リて死罪を行
ひし後早速兩判を届るとあり尤も本人本人同然ハ少し誤り
へま欲自然本人ハ死罪有之節ハ奉行所後人へ内意を閉合とへし

一 出家 二季各判の届但し他所へ野 越節ハ前方之と伺ふべし

是ハ何系何と申者出家は法名何と申は由二季届は書入る但し他
國へ罷越り行脚ふと出る届は節ハ前方之と伺ふあり

一 遁世 当時届兩判

是ハ欠落の類にて少し輕き者あり其意味を以て吟味の書付と取べ
し但し當時伺ふ然共此類ハ書判にてよし

一 養子 右月断

是ハ素人として養父母の系次第にて類族に成りたりハ出生同然
又心得てよし

一 義絶 二季兩判の届但し類族 離れハ無判の届あり

是ハ仮令親子兄弟の縁を切ても元類族あるハ其系を離るべ

一 離別 右月断

是ハ新縁の離別あるハ元の素人となり類族と離るる故兩判届但し
離別はしをも元類族としてられハ本系へ歸るとして類族と離るべ
又依て無判の届あり

一他行 届又及び

是ハ仮令ハ神佛詣或ハ養生の爲入湯ふど断り立し後ハ岡届五ヶ月
七ヶ月あるハ願又任せ奉行所へ届又及び但し長途ふど一年と
越えバ二季の届と為あり

一不分明者病死 二季兩判届

是ハ系もふく且類族と斗くと決せざる不分明者と別紙認め奉
行所へ差出とあり此者病死とバ兩判と届多あり但し且那寺正
父ホの儀類族病死同然の事あり

右是迄ハ先年中の覚書とお例へハ

○京都町奉行所又之帳面字の事

切支丹改覚書

一前々切支丹宗門の由を本人有之は於てハ何年以前何方を金銭有

之れ何年以前轉邪宗門の者よりハ共切支丹と訴人仕より依て罪科
免成在否へ取り罷在ハ裁其訣委細書付申はるべく小事

一右轉ハ前切支丹のものを有之只今迄も預差罷裁又何れを面
職仕罷在ハ裁其訣一人毎に別々委細書付申へべき事

一前切支丹として轉じ申はる以前の子ハ男女共本人同然の儀ハ間
本人の内書入申はるべく轉じ後の子ハ男女共類族の内へ書入申

はるべく小事

一前々切支丹轉じ後且那寺有之ハ何宗を平生寺へ奉詣仕ハ裁
其寺へ付届常休仕ハ裁又珠数ホと持父母の忌日ふども、寺へ奉詣
ハ裁持佛と搦ハ香花と備へハ裁其趣且那寺を慥々吟味と遂又下人

小と遣ひの者ハ其下人迄念入穿鑿致らるべく事

一切支丹の儀ハ申上及リ後宗音疑ハしき者有之ニ於テハ料所ハ代官私領ハ領主地頭へ訴へ出べく勿論役々奉行へ早く申出べく品

寄此度ハ寝美下りべく其上同類より共其科を免し仇を為らる招仰せ付らるべく若し隠置後日又顯るるニ於テハ曲事を

類族の者忌掛らる親類并ニ智勇吟味有テ書付申上らるべく此外ハ書付及リ後尤も諸親類亦他國へ放し遣し儀無用らるべく但し

ハ地頭へ申出べく尤も何年過ても其款切支奉行へも申達し帳面書直し存仕るべく事

一前々切支丹宗門の者果ハ死骸ハ塩詰ニ付し置切支丹奉行の差図

次着ハ仕るべく事

一類族の者果ハ死骸ハ吟味を遂別条ニ付之ハ且那寺へ取置其趣帳

面ニ記し毎年七月十一月兩度切支丹奉行へ差出し帳面を除せて申事

右の趣相改の帳面ニ記し切支丹奉行へ差出らるべく帳面録書本の儀

奉行中よりお達らるべく前々切支丹宗門の方へも心得の為め

お觸らる其意得らるべく事

貞享四年卯六月

一宗門改證又例年七月より十一月限差出らるべく但し延引の誤り

ハ十二月迄も受取らるべく年を越しての受取有べく事尤案又

引合の上受取らる事

一本人本人同然病死伺を書判

一取置証文書判印判

一本人病死の節を塩詰り致し置番人ホハ附るゝ及び後菩提所の墓場ふ
ら及び後埋め置お伺事

一本人類族に限らば不図他所へ罷越お果れり其処へ葬り本領へ引取
ら及び後尤も証文ハ本領より出し申さるゝ事

一父切支丹宗門不轉以前の子ハ男女共ニ本人ニ准じ小訖ハ切支丹の子
ハ出生の節子細有之行跡常あり故不轉以前の子を以て本人同然

と依て忌掛り其外共本人ニ准じ病死の節ハ即判檢使差つらし死
骸お改め塩詰り致し取置の候伺の上差圖に任せ葬の本証文差出

節右届証文引替違ハレ事

此類ハ律令類聚卷之十一

右ハ秋元但馬守へ伊勢守より書記進せしむ扣の抄書あり

○類族は出へき者の事

一本人并ニ本人同然の者より玄孫まで又伯父叔母甥姪従弟近類族は出
るあり縁者ハ本人本人同然の者の聲姑迄出るあり但し女ハ本人本人

同然より孫限りて類族と離る勿論孫より未ハ女子の子類族と離る
一領内住居替新縁ハ領主より申付られし後無判の届二季より之と出らる

べく又他國へ新縁住居替未を前方より伺ひ差圖の上申付べき事
一類族死罪の時ハ刑せしめし後兩判の証文を以て當時届らるゝべく尤も

前方断りら及び後然し本人本人同然の者ハ格別たゞべし但し是も手
延は為し難き候り其時の品よりとるべし

一同葬の候ハ火土葬共ニ記せら及び後類族ハ何葬りとも勝手次第何き

の寺へ取置しと斗り記をべし
 一類族一季居又ハ渡り奉公人ハ主人の名と帳面は記さず其者の出替の
 度毎断り及リ候令書出せ共帳面は記さず及リ候譜代又ハ長年
 季よりハ主人の名帳面は出せ也又百姓或ハ町人ハ飯住極りし郎ハ二
 季多判の届り候べし帳面引合の上居亦本住所ありは是又張帛及む
 一本人并ニ類族の旦那寺院号ハ改めし郎ハ二季多判の書付を以て届有
 りべし附借家と居住の類族ハ家主名主への断り右同断
 一妻平人夫本人同然の妻の父母ハ類族は出る
 一離別ハ候令子共り共類族を離る男女共ニ同断但し是ハ平人の事也
 一本人の妻平人として本人同然の子出生以後の離別是ハ其子本人同然
 一因て其子の類族ハ離別の母も出る

一宗首替又ハ旦那寺替の儀據ふき子細り候前方同の上差図を受べし
 一本人同然名替の儀無用なぐべし若し據ふき子細り候前方同の上
 書判の証文と出さべし附類族名替の儀誤立して有れば領主同届の上
 申付二季多判の証文と出さべし

○本人本人同然伺書上の事

- 一本人本人同然病死 判の取替証文と出さ 二季とれ無判の書付
- 一類族病死 二判の証文 一住居替
- 一変死 二判の証文 当時届但し無判 一飯居
- 一出生 二季の書付 無判の書付 一欠落
- 一新縁 右同断 無判
- 一死罪 当時届内判 一出家

二季の届無判但し他領へ越すハ前方之と伺み

- 一 道世 両時届
- 一 剃髮 二季届無判但し本人本人
同然い前方同ひ書判
- 一 名替 右日断
- 一 義絶 離別
おふじ
- 一 神佛詣 届より及り候
不時は無判但し未
秋より無用と成る
- 一 他領本人
- 一 養子 二季届
無判
- 一 法名 上日断
- 一 離別 二季届両判但し類
族と離れば無判
- 一 入湯 届より及り候
- 一 不分明者病死 二季届
両判

一 類族のりの剃髮つゝ法名願ひ候は是亦申付らる二季は無判の書付
 と以て届らるべし但し本人并本人同然の者ハ前方より之と同一差図
 の上申付らる書判の証文差出さるべき事
 一 同変死當時の断り候は無判の書付と以て申付らる候は又二季

病死断り証文の内書付出され尤兩判の事
 一 他領住居の類族の元へ引取候二重の届より同前方伊予守より浅野
 式部大捕へ達し候例有之事

○宗門改の節旗本衆より書上文言の事

一 扎

- 一 一切支丹宗門の儀前より懈怠多し改申候先達仰出され候法度書
 の趣金銭と違外処自分家来知行所百姓より至近切支丹より為ハシキ者
 内坐る候之より依て銘々寺証文取置候事
- 一 寺力同心支配の者家来迄穿鑿と違外処切支丹より紛敷者内坐る候勿
 論寺手形取置申候事
- 一 此以後寺力同心支配の者家来未占切支丹は疑敷者内坐る候早速

申上べくい其為仍て如件

年号月日

名判印
名乗判書

宛所兩名殿付

○宗門改の節大名衆より書上文言の事

一扎

一切支丹宗門前より懈怠あり相改申し先年仰せ出されし法度の趣
弥未守り私領中在り所より至迄穿鑿と遂家来下り迄吟味致し
不審成者内坐ありし事

一古切支丹の者未々迄常々行跡疑ハしき儀内坐ありし事

一領中在り所の家来者下り又者に至る迄以後不審成者有之に於て
ハ早く申達とべく以上

年号月日

名判

宛所兩名殿付

○伺證文案詞の事

一何国何郡何村百姓轉切支丹誰悴父不轉以前生に於てハ本人同然当何
月歳日何十何歳と病死致し依て即刻檢使差遣し死骸改め別
条内坐ありし之は依て塩詰及し置ハ差因次第仕多へ以上

年号月日

誰書判

宛所

○取置證文案詞の事

一前文伺證文は同し○塩詰は致しお伺上り差因に任せ且那寺何国何
郡何村何宗何寺と土葬取置申し為其此の如く内坐以上

年号月日

宛所

右何處も端作ふし代官と拙者代官所何國何と書ふ

○切支丹類族病死届の事

轉切支丹類族病死の覚

一何國何郡何村轉切支丹類族誰曾孫此間除誰悴此間除当何月幾日何才と

病死及し且那寺何國何郡何村何宗何寺と取置申

一何國何郡何村轉切支丹誰娘同國同郡誰妻当何月幾日何才と病死及

し右且那寺何村何寺と取置申

右の通類族何人病死及し何同止断りの為此の如く申坐以上

年号月日

誰判

誰判

宛所

○切支丹類族出生届の事

切支丹類族出生の覚

一何國何郡何村切支丹誰孫当何の何月幾日出生何と申住居宗音且那

寺父同前申坐以上

年号月日

誰無判

幾人イクラと右の通りタ但しタ多人数タありバ一書の方宜し

○轉切支丹類族出生届の事

覚

轉切支丹誰曾孫誰悴

何宗何國何郡何村何寺且那當何月出生
此者居宗父母同然申坐以上

右の通類族何人出生及し何届の為此の如く申上

年号月日

死所

誰 無判

○享保年中江仰出書付の事

- 一類族の者只今迄ハ追放不成就ハ共以後追放申付不苦事
 - 一離別又ハ養子の儀ハ付類族ハ離れ者ハ二季ハ兩判の証文を以て相届へく事
 - 一變死病死罪欠落道世ハ二季無判の書付を以てお届へく事
- 右の通り内後お心得を以て以上

申十一月

一切支丹本人同然の内出家ハ格別の間向後お果ハ節伺ハ塩詰及り

- 土葬成共火葬成共勝手次第取置以て以後二季の届の節申上
- 一人并ハ本人同然の者出家の外ハ只今迄の通り塩詰及し伺の上差
- 一類族の儀只今迄の通り替り急之事

戌五月

○村方より差出注進書の事

一何国何郡何村百姓本人同然誰当何月幾日何方にて病死仕ハ此者父誰
 儀何国何郡何村百姓にて申坐ハ切支丹宗門の由にて何年何月幾日
 何代官何の誰格へ申口捕長寺へ遣されハ切支丹宗門を薄し翌何
 年何月幾日申奉行所格よ申度され何月お成ハ何年以前何の何

支丹地方通類集 卷之十三

月哉日何才^{ハカレ}て病死仕^ハり^ハ付何方^{イザカ}は奉行^{ブゲク}所^{シヨ}移^シへ仰^{アハ}せ遣^{ツカ}はさ^ル且^カ那^ガ寺^テにて取置^{トリマキ}り者^{モノ}の悴^シ本人^{ジン}同然^{ドウゼン}の者^{モノ}又^{マタ}此^{コノ}坐^イり故^ユ死^シ骸^カ番^{バン}人^{ニン}付置^{ツケマキ}注進^{チュウジン}申上^{マウ}小^コ右^{ミダ}誰^{ナニ}儀^ギ宗^{ソウ}何^{ナニ}宗^{ソウ}何^{ナニ}郡^{クニ}何^{ナニ}村^{ムラ}何^{ナニ}寺^テ且^カ那^ガ又^{マタ}此^{コノ}坐^イり以上^{イサ}

年号月日

何郡何村

名主 誰印

組頭 誰印

誰悴 誰印

内人 誰印

何の誰^{ナニ}移^シ所^{シヨ}

○檢使手代へ取^トり寺院^{ジヤウイン}并^ナ村役人^{ムラノサマ}證文^{シヤウモン}の事

差上申證文の事

一前^{ゼン}父^フ注進^{チュウジン}書^{シヨ}と同^{ドウ}レ○病^{ハツレ}死^シ仕^ハり者^{モノ}の悴^シ誰^{ナニ}本人^{ジン}同然^{ドウゼン}の者^{モノ}又^{マタ}此^{コノ}坐^イり故^ユ死^シ骸^カ

塩^{シホ}詰^メ仰^{アハ}せ付^{ツケ}ら^レる^ル名^ナ主^{ヌシ}組頭^{クミダウ}并^ナ親類^{シヤク}五人^{ゴニン}組^{クミ}拙^{セツ}僧^{ソウ}立^{タテ}合^{カヒ}の上^ノ預^{ヨク}置^ケ申^{マウ}上^{マウ}重^{カサ}て仰^{アハ}せ渡^{ワタ}され^ル次第^{シヤブ}取置^{トリマキ}仕^ハる^ルべく^ク後^{ノチ}日^ヒ仍^{モト}て如^ノ件^{ケン}

年号月日

何寺印

何の誰^{ナニ}移^シ所^{シヨ}

何の誰^{ナニ}殿^{テン}

差上申證文の事

一前^{ゼン}父^フ右^{ミダ}同^{ドウ}断^{ダン}○取^ト置^ケり者^{モノ}の悴^シ本人^{ジン}同然^{ドウゼン}の者^{モノ}又^{マタ}此^{コノ}坐^イり付^{ツケ}注進^{チュウジン}申上^{マウ}り^ル处^{トコロ}死^シ骸^カ改^{カヘ}の上^ノ塩^{シホ}詰^メ仰^{アハ}せ付^{ツケ}ら^レる^ル拙^{セツ}者^{モノ}共^ニへ預^{ヨク}置^ケ申^{マウ}上^{マウ}此^{コノ}者^{モノ}何^{ナニ}国^{クニ}何^{ナニ}郡^{クニ}何^{ナニ}村^{ムラ}且^カ那^ガ又^{マタ}紛^{マギ}を^ヲ此^{コノ}坐^イる^ルべく^ク死^シ骸^カの^ノ儀^ギ下^シ知^チ次^ジ弟^{テイ}取置^{トリマキ}申^{マウ}上^{マウ}を^ヲべく^ク小^コ尤^{モト}も其^{ソノ}内^{ウチ}損^{ソム}じ申^{マウ}上^{マウ}ら^ルる^ル移^シ相^{サウ}守^{モリ}て申^{マウ}上^{マウ}ら^ルる^ル若^シし不^フ念^{ネン}の^ノ儀^ギ此^{コノ}坐^イり^ル連^{レン}判^{パン}の^ノ者^{モノ}共^ニ何^{ナニ}分^{ブン}の^ノ曲^{キョク}事^ジも仰^{アハ}せ付^{ツケ}ら^レる^ルべく^ク後^{ノチ}日^ヒ仍^{モト}て如^ノ件^{ケン}

年号月日

何郡何村

誰

誰

五人組誰

組頭誰

名主誰

印 印 印 印 印

何の誰将手代

何の誰殿

○代官より切支丹奉行へ注進書の事

覚

一何國何郡何村古切支丹何嫡男本人同然誰
右の者拙者代官所何國何郡何村百姓より罷在り處当何月幾日何才
て病死仕り又付早速檢使差遣し死骸お改り處別条に坐りし間塩詰

又致し置りし差圖次第申付べく以上

年号月日

何の誰印

宛所切支丹奉行兩名殿付あり

覚

一何國何郡何村古切支丹誰嫡男本人同然誰
前又右同断○別条ありし間塩詰又致し置註進申上り處死骸取置せり
格由差圖は付何月幾日且那寺何郡何村何宗何寺へ土葬又取置せ申り
右の注進の為此の如く申上り以上

年号月日

何の誰判

宛所右同断 右何處より先通認め所へ出

○享保十八年切支丹奉行用へ閉合の事

丑年七月作州久米北茶郡油木村住居の類族九右工門病死は付届の
 儀木下伊賀守用人岡本八左工門中島称一右工門へ同合の趣あり
 一右九右衛門獨身者にては坐り付向後代官所類族断絶申す届の後
 如何仕るべく我の事書付右の者死去の書付は添差出し候事
 一右九右衛門獨身者付田畑山林屋敷小所持仕らば借地致し立家ハ所
 の者立取せ住居致させ置尤も少く所持の衣類農具亦有之ハ右ハ菩
 提寺へ遣し度由所の者お願申す事右の儀此方より構是之付所の者
 其通り申付然るべく候
 一ニ季届の節申上り候我の事是ハ類族病死の節ハ二季届の筈然
 然るべく候改換撥有之候事

東京 大月忠興 補訂

校正地方落穂集卷之十三畢

校正地方落穂集卷之十四

目錄

- 一口論檢使願書認方
- 一行倒置成人有之節檢使願書認方
- 一家作願書認方
- 一相撲願書認方
- 一奉行所掛の処宿預成し節地頭支配への届書認方
- 一吟味中病氣届の事
- 一定免切替請證久認方〇定免切替願書認方
- 一目安初判請書認方
- 一初て公事合は成評定所請は掛りへ出し節差上る差出し認方

評定所より差上り請書認方

過料錢上納書認方

片疥口差出し認方

病氣にて出牢宿預申付らばし節掛り役人へ差上り請書認方

一 凶惡悲願書認方 ○ 評定所より於て地所見分申付らばし節請書認方

一 差添人代り合願書認方

一 貸附役所より村方引請未納證文案又受取書認方

一 先觸認方

一 内消口證又認方

一 宿替願書認方

一 牢屋見舞願書認方 ○ 吟味中猶豫願書認方

吟味中掛合の上内消致度連印を以猶豫願せし處示談行届より破談

成し節の届認方

一 吟味中預人并手鎖の旅人月代凡願認方 ○ 預手鎖人有之節請書認方

一 腰掛へ双方出し節翌日申呼出し請書認方

一 村へ市尋の儀有之廻状にて觸達し節否請書認方

一 差紙頂戴市差日より延着の節差上り書面認方

一 訴詔人由判頂戴相手銘々へ相附差日以前出府着届書認方

一 奉行丹より飯村申付置まじ處猶又日限を付出府届書認方

一 改印届書認方

一 吟味中引合人由呼出し差紙頂戴着届認方 ○ 同代引請の節書面認方

一 相手取らば判頂戴差日以前着届認方

吟味中掛合の上内消致度連印を以猶豫願せし處示談行届より破談

- 一 同代引請し節同様返答書へ相添へ差出と書面認方
- 一 判附らし節相手方より訴詰方へ遣は拜見書認方
- 一 吟味中一同連印し日延願書認方○同破談届書認方
- 一 吟味中飯村願の事
- 一 吟味中欠落せし者日限尋申付し日限又相成訴書認方
- 一 平常欠落者訴書認方
- 一 出火届書認方
- 一 盗賊又達し節訴書認方

校正地方落穂集卷之十四目錄 畢

校正地方落穂集卷之十四

信陽 東條耕子藏 校

○口論檢使願書認方

下忍以書付奉願上以下四ヶ条端

一 何國何郡何村誰親類誰申上奉り右誰後用事有之幾日何時罷出イシカナナドキヨリイデ

途中何村誰と口論又及び何所々へ何程の疵と被り外又付早速醫師ナツクイイ

相掛手當仕り得共苦痛強く存命斗り難く存じ奉り外又付此段由訴へコノクシ

申上奉り何卒凶慈悲と以て早速由檢使下し置き外招奉願上以上

年号月日

何國何郡何村
當人誰親類
誰印

宛所

組合 誰 印
村役人 誰 印

○行倒死人有之節檢使願書認方

端書上 又同じ

一何國何郡何村名主年寄百姓代申上奉りナマシトシヨリ當村字何と申所チシヨイ年齒幾才位タラヒと相見ミへ非百姓タラヒ体タラヒ男女オノメ行倒ユキタラを相果罷ヘテエカリアリ在ナリ當月幾日誰見付相知せミテ小コ又付早速罷越見届イリ外衣類何品モノと着しキ所持テの品何ナニ有アリ之全ツクく自分ミヅカと行倒ユキタラお果ヘテいとお見ミへ非間此故ナニ由訴ウツタへ奉申上マウシ何卒ナニトツ此慈悲ジヒを以て早速ツツ由檢使下し置ツキせ非格奉願上ツク以上

何州何郡何村

見付人 誰 印
百姓代 誰 印

年号月日

宛所

年寄 誰 印
名主 誰 印

○家作願書認方

端書上 又同じ

一新規家作

横何間

一箇所

クニモノノコサイ此外建物巨細ニ記シせ

一物置所

日 日 日 日

一箇所

右ハ何國何郡何村誰奉申上マウシ私儀シキ所持高何十何石所持テ仕シ家内何人暮バシしハ由坐マひハ外合ソト敷何と申者マウシの所持畑タテの内何畝何歩ツブの場所バシへ書面シの通りツリ新規家作シ致シ分家ブンケ致シを百姓タラヒお續仕ツクりハ格致ツクし度タ之ノ依ヨリて村内ムラノお礼ウケしハ共故障ツクホハ坐マあハくハ然シる上ノと右何畝歩ツブの場所バシハお当オウの屋敷ヤシ物成モノ成ナリ上納仕ウケり農業ノの外商ソトノハ仕向シトクハ間何卒ナニトツ此慈悲ジヒを以て此改カ由成ナリ成ナリ下し置ツキせ非格奉願上ツク以上

年号月日

何國何郡何村

願人 誰
親類 誰
組頭 誰
名主 誰
連印

宛所

○相撲願書認方 端書上

一何國何郡何村名主年寄百姓代奉申上ハ此度相撲年寄何の誰何方邊よ
と相撲罷越しカハの掛りの由ヨレを兼て当村鎮守何神へハ心願ハて
年来相撲奉納仕ハ心掛ハ處幸好折柄ハ付同人弟子共ハ以て来る哉日
より晴天哉日の間相撲興行仕ハ於奉存ハ勿論木戸銭ハ取り又ハ花札
ホ配りハ儀ハ決ハて坐ハあハ間何卒ハ慈悲を以てハ同済成ハ下し
置ハむハ格奉願上ハ以上

年号月日

何國何郡何村

名主 誰
年寄 誰
百姓代 誰
相撲年寄 誰
連印

宛所

○奉行所掛りの処宿預け申付らハし節地頭支配への届書認方

乍恐以書付奉申上ハ

一何町何丁目誰申上奉り何州何郡何村何出入一件の者共今哉日当ハ
役所様より何奉行何の誰様へハ差申しハお成ハハ同入格一通り
ハ吟味の上猶又ハ苗役何の誰様ハ吟味ハ私方ハ止宿罷在ハ
誰儀ハ吟味中私方ハ宿ハ預け仰せ付らハハ付則右ハ清書差上ハハ
追ハハ吟味有之ハ音ハ引取仰せ付らハハ依て此段ハ届奉申上

以上

年号月日

宛所

○吟味中病氣届認方_ニ端書_上

右宿
何町何丁目
何屋
誰
印

何之誰知行所
何州何郡何村
誰

右宿誰申上奉_リ右誰儀昨_{サシ}昨日_ノ日延奉願上_ニ則今日罷出掛合_の
上始末_ハ届申上_ニな_ク外_ハ昨夜中_ノ何病_ヲ頻_ニ差詰取_ル罷在_ル届
又罷出_ル儀も_ハ成兼_ハ又付_テ是非_ハ私_ニ改_メ届奉申上_ニ尤も少
く_シても快方_ニ趣_ハ早速_ニ連_テ届申上_ニべく_ク間_ハ右_ノ同_ノ下_ニ置
此_ノ格奉願上_ニ以上

年号月日

宛所

○市定免切替_ハ請証文認方
差上申_ニ請証文_ノ事

右宿
何町何丁目
何屋
誰
印

当何年_ノ何年_ノ迄何年_ノ市定免
一高_ノ何程
此_ノ永_ニ何程

何國何郡
何村

右_ノ当_ノ村_ノ取箇切替_ハ市定免_ノ儀奉願上_ニ外_ハ再_ニ應_ル吟味_ノ上_ニ書_ハ面_ノ米
永_ニ以_テ当_ノ何年_ノ何年_ノ迄何年_ノ市定免_ハ仰_セ付_ラ音_ヲ仰_セ度_サ
生_キ一同有_テ難_ク奉_存尤_モ三分_ノ以上_ノ損毛_ハ相_當ら_ズ節_ハ納_ル辨_仕申_檢
見_入奉願_上且_ツ畑_方ノ_儀一_國一_郡ハ_響き_ル程_ノ損毛_ハ格_別依

令皆損同様の凶作は坐小共容易は引方成し下きりげも同百姓共
兼てお心得耕作仕るべく旨且又山崩は其外の損地有之共小前持
高十分一は相當らざるかハ正定免年季中の引方お立申はる段仰
せ渡され逸々承知畏り奉りて年貢入納方の儀を割賦通らお納め
十二月十日限り此度昏納仕り
右の通り小前百姓造一同承知奉畏り之に依て連印證又差上申処如件

年号月日

宛所

○正定面切替願書認方

乍恐以書付奉願上

何國何郡何村
百姓代 誰
組頭 誰
名主 誰
連印

何年より何年迄何ヶ年季正定免
一米何程
外米何程 切替増

正上納過

右ハ何國何郡何村名主年寄百姓代申上奉りて當時田方正年貢の儀去
何年より何年迄何ヶ年季正定免仰せ付置き外処当何年季明は付増米
を以て跡正請て仕旨先達と仰せ觸らる畏り奉りて然る処一併土地惡
敷場所殊更近年不作旁々小前の者共困窮お暮り是造の上納過りて
出情仕漸く取續き罷在候儀は付何卒正慈悲を以て前書増米を以て此上
何年迄何ヶ年正定免跡正請仰せ付ら下し置き正格奉願上以上

年号月日

宛所

何國何郡何村
名主 誰
年寄 誰
百姓代 誰
連印

○目安の初判請書認方

由請

何の出入

何之誰知行所

何國何郡何村

名主誰カ頭頭百姓カ

訴文 誰

何之誰知行所

何國何郡何村

何 誰

外何人

右の通目安差上ハ何月哉日ハ差日ハ尊判頂戴仰セ付ラ有難仕合
奉存ハ然上ハ飯村の上相手銘々ハ相附拜見證文と取りハ差日以前
着ハ届申上ベキ音仰セ渡サモ承知仕テ奉畏ハ但し相手の者其節返答
書ハ控とも二通宛持参罷出ベキ様相達し申モキ音是亦仰セばされ

奉畏ハ之ハ依テ由請印形差上申処如件

年子月日

由奉行所様

○初テ公夏合ニ成評定所請掛クハ罷出し節差上ハ差出し認方
初而公事

何之誰様掛

何の出入

何之誰領分

何國何郡何村

訴文 誰

何之誰知行所

何國何郡何村

相手 誰

右 訴文 誰 印
差添人 誰 印

右宿 何町何丁目 何屋 誰 印

右訴訟方宿

何町何丁目

何屋

同相手方宿

何町何丁目

何屋

月日

右の通り認しと一枚外掛りへの名前を書入るべしと差添人の名前
 前と書入しと一枚都て二通差出さるる左をねり掛りへの名前書入
 し方へを朱引りて下るる多り則是と即日訴訟方の者持参して評定所
 へ差上帳面を付し上又掛りへ其段の届申上ることあり但し差出おし
 呈を申上る

○評定所より差上る請書認方

差上申一札の事

一私共出入地等の儀決し難は付地改申手附申代中差遣りねり間場
 所は於て我意立定吟味と受都て申手附申代衆の差因ホ違背仕る間
 敷の事

一地改申吟味中申分と立申奉行所へ差越し願出の者有之共決して申
 取上の坐あへり事

一市吟味を証据次第道理次第と相分け依怙具負ハ急之事は申手と
 廻し頼ケ間敷後仕るる若し賄賂金ホ差出し小節ハ申置仰せ付
 らるる間此度お慎と申べき旨且申手附申代中召連らるる小者衆ホ
 ぶら聊々の品送りて申同様申置お成り更勿論小者衆より無心
 ケ間敷後申掛らるる早其筋へ申達し申奉行所へ申上べく事
 一地改申吟味中農業怠ら地改の場所へ無益の者罷出は尤も不用の人

足差出さる都て村入用多く掛らばる格致を乞事
右仰せ渡されの趣速く承知奉畏い若しお背きりしは各仰せ付らる
多し依て市請證文差上申処如件

年号月日

市評定所掛り

何の誰様

何國何郡何村

訴答連印

○過料錢上納書認方

市上納仕過料錢之事

一錢何貫文

右石川主水正様市吟味の上上州字較ヶ嶽と唱へ山ハ峰通り碓氷
一市関所見通し遠圍り守護仕五料村の外登山お成難くを相辨へ

何誰領分

何國何郡何村

必早魁日付用水多之とて多人數登山はし段不將に付書面の通過料
錢仰せ付らる三日の内当市役所へお納むべき旨仰せ渡され市上
納仕以上

年号月日

何誰様
市役所

右何村
誰

○片濟口差出し認方

片濟口市訴訟

何誰知行所

何國何郡何村

訴訟 誰

差添人 誰

訴訟方宿

何町何丁目

何屋

月日

○病氣して出牢の上宿預け申付らむし節牢屋敷掛り役人へ差上

小請書認方

差上申出請書の事

一何の誰領分何國何郡何村誰後何之誰格掛りして入牢仰せ付置きの
処右誰後病氣に付私方へ宿預け仰せ付らむし節預け奉りし之に依
て小請印形差上申出如件

何町何丁目

江戸宿

誰店
誰印

何之誰様組
何之誰様

○此慈非願書認方

乍恐以書付の慈悲願奉申上

一何國何郡何村百姓誰親類誰組合誰奉申上右誰後何村誰と口論の上
疵負せし付の吟味中入牢仰せ付らむし一同奉恐入り右誰後身分今般
の吟味筋ハ奉存らむしへ共平日實体とは是ゆて不法の儀お働きの
事も承り及し別て極老の父母有之朝暮悲歎し沈み罷在り改不便至
極に奉存り同何卒格別の慈悲願を以て以上の慈悲偏に奉願上り以
上

何之誰知行所

何國何郡何村

誰親類

組合

誰誰

誰印

誰連印

年号月日

宛所

○評定所ニ於て地所見令申付らし節請書認方
是を前々評定所ニ於て差上ノ請書認方と振合同シ故之を畧す
○差添人代り合願書認方

乍恐以書付奉願上ノ

一何國何郡何村百姓誰差添入紹雖誰奉申上ノ私候老衰の父有之持
病ト是ゆを打卧罷在ノ処母節重体ニお成存命の程も覺束あり存生
中對面はしな段お歎き越ルニ付飯村の上藥用介抱手當小仕な存し奉
ハ之ニ依て代り合トシ同役誰出府仕ハ間何卒小慈悲を以て右誰ハ
代り合仰せ付ら下し置且ハ格奉願上ノ以上

何ノ何月

何之誰知行所

何國何郡何村

代合願人 誰 印

○内務省 借入 貸付

宛所

分引受 誰 印

○貸附所後所ト村方引受未納證又案文請取書認方

差上申請書の事

地頭何之誰拜借金返納方別紙に案文一通而渡し遊ハさハ儘ニ受取奉
リ小然上ハ米る哉日本紙を認め右に案文添差上奉るぐハ之ニ依
て申請書差上申処如件

何誰知行所

何國何郡何村

後人惣代 名主 誰 印

年号月日

由貸附 由後所

○先觸認方

覚

一人足 一人

一輕尻 一匹

右と費用は付明幾日幾時何方より出立し何州何区罷越の間前書
の人馬川へ渡し舟は遅滞あり差出し柘肝煎給りるべく尤も定の
賃銭お拂ひ罷通り申とべく

月日

何之誰内

何之誰

右宿

問屋中

是より奥へ泊り宿と順に記を

○内濟口證文認方

差上申内濟口證文の事

一何國何郡何村誰奉申上外私より何國何郡何村誰外何人相手取賃金滞
出入申立当由奉行必招へ出訴奉り当幾日は差日の内尊判頂戴お附
処相手の内何國何郡何村誰外何人の者より滞金高何程の内何程期月
證文を取り残金何程を何くの積りま致し申分あり熟談内府仕偏は
威光と有難く仕合ふ奉存し且何國何郡何村誰滞金何程ハ未だ相濟
申らば内此分由吟味奉願上之より依て内府口證文差上申処如件

年号月日

宛所

○宿替願認方

何誰知行所
何國何郡何村
誰印

乍恐以書付奉願上

一何國何郡何村誰奉申上レ私儀是迄何町何丁目何屋誰方レ止宿罷在レ處此度何町誰方レ宿替仕レ及兩宿掛合レ及以レ處故障差レ之間何卒レ正慈悲レ以レ願の通り仰付レ下レ置レ以レ存奉願上レ以上

年号月日

何國何郡何村

願人誰印

兼添人誰印

兩宿連印

宛所

○牢屋見廻願書認方レ端書上レ同

一半紙 二帖 一手掛 一筋 一錢 何程

一食物類 何品 一幾品

右を先達レ入牢仰せ付レらレ誰方レ書面の品レ送り遣レし度奉存レ之間

何卒レ正慈悲レ以レて右誰方レへお届レ以レ存仰付レらレ下レ置レ以レ存奉願上レ以上

年号月日

何國何郡何村

願人誰印

兼添人誰印

右宿 何町何丁目

百姓宿 誰印

宛所 宛名を時の掛り後 人の名を認りあり

○吟味中猶豫願書認方レ端書上レ全

一何國何郡何村一件の者共奉申上レ私共出入当時吟味中レ止坐レ以レ處掛合の上熟談内済仕度奉存レ之間何卒レ正慈悲レ以レて来る幾日レ迄吟味レ而猶豫成レ下レ置レ以レ存一同連印レ以レて奉願上レ以上

何誰領分

何國何郡何村

月日

訴訟 誰印

同 同

相手方 誰印

同 同

引合人 誰印

宛所

○吟味中掛合の上内府仕立一同連印と以て猶豫願致し掛合及び
し処示談行届より破談届認方

乍恐以書付奉申上り

一何國何郡何村一件の者共奉申上り私共出入り吟味中より坐し処掛合
の上熟談仕立奉存りし付昨歳日頃より吟味中猶豫奉願上り精々掛合
及び共行届申上り是非あく破談届奉申上り以上

月日

訴訟并し 連印
引合人

宛所

○吟味中預入并し手鎖申付置きより旅人月代凡願書認方

乍恐以書付奉願上り

何國何郡何村 誰

右の者儀吟味中手鎖の上私共へ預け仰せ付置きより付此度お慎
と置せし処右誰儀月代長髪は罷成眼病と難儀至極仕立私共へ相
歎き向何卒も慈悲と以て月代凡仰せ付ら下し置きし招偏り奉願
上り右願の通内同済成下し置きし有り難く仕合は奉存り以上

月日

右誰差添人 誰印
右宿 何町何丁日 誰印

宛所

○右預け手鎖人有之節請書認方
差上申中請書の事

何國何郡何村
誰

右の者儀在吟味中私方へ宿預け仰せ付らる承知奉畏然る上ハ屹
度お慎せ置用の節ハ早速召連罷出へくり之に依ては請書差上申
処如件

月日

宛所

○腰掛へ双方罷出し節翌日呼出し請書認方但し是ハ訴訟方
内請

右宿
何町何丁目
誰印

一何國何郡何村一件の者共明哉日召連罷出べき旨仰せ付らる承知畏
奉然る上ハ右制限遅滞なく召連罷出べく之に依ては請書差上申
処如件

月日

宛所

訴訟方宿
相手方宿
引合人宿
同連名印

○村へ申尋の儀有之廻状して觸達の節否由訴書認方

乍恐以書付奉申上ハ

一何國何郡何村名主誰奉申上ハ由觸の趣何々の者取調べハ共当村方
右体の者番申上ハ之に依て此段申届奉申上ハ以上

月日

宛所

何國何郡何村
名主 誰印

○市差紙頂戴の差日より延着の節差上の書面認方端書上
 一何國何郡何村誰奉申上私儀の儀有之早く罷出べき旨市差紙頂戴拜見承知奉畏則幾日出立仕何途申上於持病の何差起漸昨日夜何時江戸着仕則届奉申上右延着の段有免成下し置を存奉願上以上

年号月日

宛所

何誰知行所
 何國何郡何村
 何人誰誰
 誰印

○訴訟人市尊判頂戴相手銘へお附市差日以前出府着届認方端書
 同上 何國何郡何村何誰奉申上私何方何誰外何人相手取何月中訴

一何國何郡何村何誰奉申上私何方何誰外何人相手取何月中訴

訟奉申上何月幾日の市尊判頂戴相手銘へ相附拜見証文之を取
 則出府仕何間此段着届奉申上以上

年号月日

宛所

何國何郡何村
 訴訟人誰誰
 誰印

○奉行所より飯村申付置し何日限又付出府着届認方端書
 一何國何郡何村何誰奉申上私何方誰外何人へお掛何の出
 入吟味中何坐何處舊冬月迫又付今幾日先飯村仰
 せ付ら何處何日限付出府仕何間此段着届奉申上以上

年号月日

宛所

何誰知行所
 何國何郡何村
 何人誰誰
 誰印

○改印届書

乍恐以書付申届奉申上トケ

一印鑑イシカン (印)

右ハ私儀是迄亦持仕シヨガハ印形欠損イシケウカケケンシヨ又付此度改印仕カウシ之シ依て此段申届奉申上トケ以上

年号月日

宛所

何誰支配所
何國何郡何村

何く誰印

○吟味中引合人申呼出トケハ差紙頂戴着届認方

乍恐以書付奉申上トケ

一何國何郡何村何トケ誰奉申上トケハ私儀申尋シヨチ筋スネ申上トケハ坐イ付早サキ或ハ幾日病氣シヨク申上トケハ罷出シヨカリへトケきトケ音ネ申上トケハ差紙頂戴拜見承知奉畏シヨチ申上トケハ則出府着届申上トケ

上奉り以上

年号月日

宛所

何誰支配所
何國何郡何村

何く誰印

○吟味引合人呼出トケシの差紙頂戴トケ代引請の節書面認方トケ端書上

一何國何郡何村誰煩シヨチ代兼誰奉申上トケハ今般申尋シヨチ筋スネ申上トケハ坐イ付罷出シヨカリをトケ差紙頂戴拜見奉畏シヨチ前書誰儀シヨチハ同罷出シヨカリべくトケハの處持病トケの何トケ差紙シヨチ平臥仕居罷出シヨカリ誰トケ音ネ相歎シヨチハ同是非シヨチ私代引請出府着トケ申届奉申上トケハ尤も右誰シヨチへトケ申尋シヨチの儀シヨチを私シヨチ差紙シヨチへトケ申請申上奉るトケなくトケハ此段申届済成シヨチ下し置シヨチ格奉願上トケ以上

右同断
誰煩を付

年号月日

宛所

何々 代兼 誰 印

○相手取らまの尊判頂戴の差日以前着届認方^{端書上}
一何國何郡何村誰奉申上^{コレバシ}今般何方誰より私へお掛り何々出入の旨申^{テイソク}
立当^{テトク}の役所様へ出訴奉り何日^{サシヒ}の差日の^{ソシバシ}尊判頂戴仕お附^{ツケ}の付拜見^{イケン}
承知^{ヒツケ}奉畏^{オソ}の則出府仕^{スツ}同此段^{ドウジダン}の届奉申上^{トク}以上

年号月日

宛所

右同断 何々 誰 印

○右同断代引請し節同様返答書へお添へ差出と書面認方^{端書上}
一何國何郡何村誰煩^{ワヅレ}の付代兼誰奉申上^{ダイカキ}今般何方誰より私共へお掛り^{コレバシ}
何々出入の旨申立^{テイソク}当^{ムキ}の役所様へ出訴奉り^{スツ}幾日^{イツク}の差日の^{イツク}尊判頂戴

相附^{ツケ}の付誰^{ナニ}儀も一同罷出^シなる^{ナリ}何々の病氣^{ハゲキ}を此節^{コノマダ}別々^{ワケ}差重^{サシカ}る^ル
罷出^シ難^ガき者^{モノ}お歎^{ナゲ}きの付^ツ余儀^{ヨリ}私引請代^{ヒキキ}として罷出^シの^{ナリ}右誰^{ミダ}へ^ニ
お尋^{タシ}の儀^{ナリ}と私より聊^{ウチ}々^{ウチ}相違^{アヒ}多^クの旨^{ナリ}申上^ルなる^{ナリ}何々卒^スの慈悲^シを以て^テ
此段^{コノマダ}の^{ナリ}同済^{ドウジ}成^ルし下^ニし置^キ且^ツ格^キ奉^ル願^ヒ上^ル以上

右同断

誰煩^{ナニ}の付^ツ

代兼 誰 印

年号月日

宛所

○の尊判附^{ツケ}らまし節相手方より訴訟方へ差遣^{サシ}を拜見書認方

一札之事

今般^{コノマダ}貴^キ殿^{テン}より我^ワへお掛^カり何々の出入^{テイソク}何の誰様^{ナニ}へお訴^ソ訟^{ソウ}なされ何月^{イツク}
幾日^{イツク}の差日^{サシヒ}の^{ソシバシ}尊判頂戴^{ソシバシ}仕お附^{ツケ}らまし承知^{ヒツケ}畏^{オソ}り奉^ルり何々の差日^{サシヒ}幾日^{イツク}以前

何月幾日銘く返答書控も二通ツ、右の掛りの役所へ着届申上べき
旨仰せ渡されし趣申達しふは是亦承知仕り且申判物の後ハ墨付汚
小申坐ふ、預クし方、預ハ書入ミシ之は依て申請印形差出申如件

年号月日

何国何郡何村

五人組 誰
名主 誰
連印

誰殿

○吟味中一同連印、七日延願書認方

是を前条吟味中猶豫願と認方同様ある故之と畧す

○右同断破談届書認方

是を前条吟味中内消仕及猶豫奉願外処行届、ハ破談は成り届と
同格ある故之と畧す

○吟味中飯村願書認方

乍恐以書付奉願上

一何國何郡何村誰奉申上ハ私儀誰より誰へお掛りハ一件又付召出さる
由吟味中ハ申坐外処老衰の故有之ハ是迄打卧罷居外此節ハ至
り追々差重り寂早老年の上の儀存命の程も覺束あくハ間存生中今
一度對面致し夜音お歎き越ハ付飯村の上葉用介抱手当ホ仕及奉存
ハ間何卒ハ慈悲を以て一先飯村仰せ付らさ下し置をハ存奉願上ハ勿
論此上ハ用の後ハ何時成とも早速罷出ハ間此段ハ内消成し下し置を
ハハ有難き仕合ハ奉存ハ以上

年号月日

右同断

誰印

宛所

才正此方...

○吟味中欠落致せし者日限尋申付置き日限又成訴書認方

乍恐以書付此訴奉申上

何誰支配所

何國何郡何村

誰

右の者欠落仕り行方お知を申付候外又付其致此訴奉申上外処追々尋方仰せ付らる猶亦先月歳日より昨歳日以内で三十日限り尋方仰せ付らるを奉畏心当の所へ油断なくお尋候へ共今以て行方お知を申上候最早日限又付此段余義多く此訴奉申上以上

何誰支配所

何國何郡何村

誰印

年号月日

宛所

○常体欠落訴書認方

端書上

何國何郡何村

誰

右の者何親の誰并親類組合村役人一同奉申上候前書誰候当何月何日不図家出仕り立候り申上候外同心当りの場所精々相尋候へ共行方お知を申上候尤も何故家出仕候心当りも之右に付出入掛り合候と申し来ら候へ共出先は於て何様の儀出来候も斗り難く安心仕らむ外間此段申上以上

右同断

親類誰

名主組合連印

年号月日

宛所

○失火届書認方

端書上

才正此方...

〇二二二

一 燒失家 竊賊程
一 物置所 日

此外燒失せし箇
所巨細を記す

何國何郡何村
誰

右者何國何郡何村名主年寄百姓代一同奉申上以前書誰儀家内我人
暮より坐し然る処当月幾日夜何時頃圍爐裏の灰能く去りし居宅続き
物置所へ取置し処火消へ残り有之我同夜何時頃右場所より燃立
と誰見付立し又付村内の者其外馳付油断なく防ぎいへども折節風
烈しく居宅物置所其外と残り焼失仕尤も村内正高札場ハ勿論外
類焼家人馬怪我ホ一切止坐あり且何れも怪しき風因ホ止坐あり全
く手過ちはお遠き之前書誰儀ハ恐入村内菩提所何院へ入寺仕置慎
と罷在り間此段申上以上

年号月日

右同新
百代誰

年号月日
宛所

年寄 誰 連印
名主 誰

○盜賊に遭し節訴書認方 端書上

一 何品 幾箇
一 何品 幾箇

右者何國何郡何村誰奉申上私家内何人暮しと農業の間何渡世仕
罷在り然る処当月幾日夜飯給仕廻夫々戸締りホ致し尤も錠前ハ心付
む家内一同卧りし処同夜何時頃と覺へ便所へ参るべくと起出見外へ
を襲う入口の戸明有之れ又付不審に存家内穿索仕 処右の品々お見
へ申上全く右の場所より盜賊忍入盜去りし儀と奉存ハ早速所
尋ハ共怪敷風因手掛りホ一切止坐あり間此段申上以上

校正地方落穂集卷之十四畢

年号月日

宛丹

何國何郡何村

何々誰印
村々誰印

校正地方落穂集卷之十四畢

東京 大月忠興補訂

明治三年庚午九月

東京 晚翠書屋藏版

製本所 山形七兵衛

東京

書肆

鶴	淺	鴈	紀	椀	鈴	出	岡	和	和	和	山	山	湏	湏	湏
	倉	金	伊			雲	田	泉	泉	泉	城	城	原	原	原
屋	屋	屋	屋	木	寺	屋	屋	屋	屋	屋	屋	屋	屋	屋	屋
喜	久	清	源	喜	喜	萬	嘉	吉	市	金	政	佐	新	伊	茂
右	兵	兵	兵	石	石	次	兵	兵	兵	石	兵	兵	兵	兵	兵
衛	衛	衛	衛	衛	衛	衛	衛	衛	衛	衛	衛	衛	衛	衛	衛
門	衛	吉	衛	衛	門	郎	七	衛	衛	門	吉	衛	衛	八	衛

